

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年1月20日

## 【評価実施概要】

|               |                                     |
|---------------|-------------------------------------|
| 事業所番号         | 4270600499                          |
| 法人名           | 社会福祉法人 五島会                          |
| 事業所名          | グループホーム 五島                          |
| 所在地<br>(電話番号) | 長崎県五島市大荒町1210<br>(電 話) 0959-72-1833 |

|       |                          |       |               |
|-------|--------------------------|-------|---------------|
| 評価機関名 | SEO (株)福祉サービス評価機構        |       |               |
| 所在地   | 福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F |       |               |
| 訪問調査日 | 平成 20年 11月 26日           | 評価確定日 | 平成 21年 2月 20日 |

## 【情報提供票より】(平成 20年 10月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

|       |           |         |              |
|-------|-----------|---------|--------------|
| 開設年月日 | 平成15年3月1日 |         |              |
| ユニット数 | 1 ユニット    | 利用定員数計  | 9 人          |
| 職員数   | 常勤        | 6人, 非常勤 | 1人, 常勤換算 6.5 |

### (2) 建物概要

|      |           |           |
|------|-----------|-----------|
| 建物形態 | 併設 / (単独) | (新築 / 改築) |
| 建物構造 | 木造平屋造り    |           |
|      | 1 階建ての    | 1 階部分     |

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |          |                |       |   |
|---------------------|----------|----------------|-------|---|
| 家賃(平均月額)            | 3,000 円  | その他の経費(月額)     | 円     |   |
| 敷 金                 | 有( 円)    | 無              |       |   |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円)    | 有りの場合<br>償却の有無 | 有 / 無 |   |
| 食材料費                | 朝食       | 円              | 昼食    | 円 |
|                     | 夕食       | 円              | おやつ   | 円 |
|                     | または1日当たり |                | 850 円 |   |

### (4) 利用者の概要(平成 20年 10月 1日現在)

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名       | 男性   | 4 名  | 女性 | 5 名  |
| 要介護1  | 3 名       | 要介護2 | 3 名  |    |      |
| 要介護3  | 2 名       | 要介護4 | 1 名  |    |      |
| 要介護5  | 0 名       | 要支援2 | 0 名  |    |      |
| 年齢    | 平均 86.2 歳 | 最低   | 71 歳 | 最高 | 95 歳 |

### (5) 協力医療機関

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 協力医療機関名 | 五島中央病院、聖マリア病院、よこやま歯科医院 |
|---------|------------------------|

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『地域や自然とふれあいながら、その人らしく生活できるように支援します』という介護理念のもと、ご利用者の笑顔と生活のペースを大切にしながら、1人1人の意思を尊重したケアに取り組まれている。理念のとおり、ホームは山々に囲まれており、綺麗な空、空気のもと、ご利用者は、温かな職員やご家族、地域の方々とともに日々楽しく生活されている。玄関を入ると、ピカピカに磨かれた廊下がある。そこには酒壺や藁草履、炊飯ジャー等の昔ながらの生活必需品が並べられており、昔を懐かしみながらご利用者同士の会話も弾んでいる。職員同士のチームワークもよく、ご利用者、職員ともに笑顔の多いホームである。“井の中の蛙”に陥らないようにと、毎年、外部評価に対しても前向きで、全職員で協力して課題を明らかにし、改善に向けて話し合っている。ご利用者の方々により良いサービスを提供していきたいとの思いを強く持たれている。母体の施設からの応援もあり、連携を図りながらさまざまな取り組みを続けている。「五島会」グループとしても、地域向けの広報誌「はあとケア」を発行するなど、今後も地域に根ざした、地域の中のグループホームとして努力を続けていきたいと考えているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

|           |  |
|-----------|--|
| 重点項目<br>① | <p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題とその取り組みとして、①理念の中に地域の中で生活することに重点をおき、『地域や自然とふれあいながら』という言葉を取り入れた。②理念の共有と日々の取り組みを行っていく中で、ご利用者の個々人の生活ペースを大切に、個人情報についても全職員で話す場所に気をつけていく等の新たな取り組みができています。③運営推進会議にて新たにご利用者が参加されるようになった。</p>   |
|           | <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>“井の中の蛙”に陥らないようにと、毎年外部評価は有難く受けとめている。全職員で自己評価を行ない、項目の意味を一緒に考えながらまとめた。昨年度の外部評価後、改善計画書を全職員で検討しながら作成し、課題を明らかにして改善に向けて話し合った。地域との関わり方、日頃のケア(プライバシーの確保や声かけ)や現在のサービス内容の振り返りを行なう良い機会となっている。</p>  |
| 重点項目<br>② | <p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1度、運営推進会議は同法人内のホーム4棟合同で行われ、事業所からの報告や要望等を聞いている。外部評価の結果は、会議で報告するとともに、ご家族、市の職員、地域の方にも配布して読んでいただき、「こんなところまで気をつけていたのですね」と驚かれたり、励まされたりと、ホームの取り組みを理解していただけた。運営推進会議の回数が重なるにつれ、市担当者との距離も近くなり、会議終了後の何気ない会話の中で、近況報告や相談ができるようになる等、相談しやすい関係が保てるようになってきている。</p>                                     |
| 重点項目<br>③ | <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月“ホーム便り”をご家族へ郵送し、ご家族が来訪された際はしっかり個別にご利用者の心身の状況をお伝えしている。また法人本部が中心となり、年に2回、ご家族アンケートを実施している。ご家族が来訪された時やお電話の時に、少しでも話しやすい雰囲気でご意見が表せるように職員は心がけており、意見を書き留めるものも作っている。運営推進会議のときにいただいた市職員の方からのご提案で、昨年4月から“家族会”が発足し、年1~2回の活動をするにしており、今年の9月にも家族会が開催された。またご家族にコスモス見学等の行事へお誘いし、ご家族のご意見を表出しやすい環境作りに努めている。</p> |
| 重点項目<br>④ | <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>福江祭り、地区の運動会の見学、地域の清掃活動、老人会のゲートボール等に参加している。系列のホーム同士4棟合同のホーム主催のバザーを開催し、地域の人々に来ていただいている。ホームの方からも近所の方へ料理のおすそわけをしたり、近所の人からも古紙をいただいたり、調味料を借りに行く等、常に地域との関わりを意識した取り組みを続けている。運営推進会議の中でいただいた意見が発展し、民生委員の方の協力もあり、今後は幼稚園児、小学生、中学生、高校生等との交流への取り組みも検討されている。</p>   |

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                           | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|------------------------------|----|---|--|------|---|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>           |    |   |  |      |   |
| <b>1. 理念と共有</b>              |    |   |  |      |   |
| 1                            | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 開設当初から、運営者より、地域に目を向けた理念を考えるようにとの働きかけがあった。平成20年2月、会議の際に全職員で話し合いを行ない、さまざまなアイデアを抜粋し、『利用者の意思を尊重し、地域や自然と触れ合いながら、その人らしく生活できるよう支援します』という現在の理念を新たにつくりあげた。理念を考えていく過程で、“ご利用者の本当の楽しみとは何なのか”ということを真剣に振りかえる良い機会となった。  |      |   |
| 2                            | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 理念と合わせて、介護目標を職員全員で作成している。毎日の申し送りの中で理念を唱和し、ホームの玄関や事務所にも理念を掲げており、全職員が一致団結して日々理念の共有に取り組んでいる。ご利用者に対する接し方などの改善計画を立て、全職員が意識してケアを行なうことで、自然とご利用者のペースに合わせたケアができるようになってきた。また1対1でのゆとりある会話を大切にする気持ちが持てるようになってきている。   |      |   |
| <b>2. 地域との支えあい</b>           |    |   |  |      |   |
| 3                            | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | ご利用者と一緒に、地区の運動会の見学、地域の清掃活動、老人会のゲートボール等に参加している。毎年、系列のホーム同士4棟合同のホーム主催のバザーを開催し、地域の方々をご招待している。ホームの方からも近所の方々へ料理のおすそわけをしたり、近所の方からも古紙をいただいたり、調味料を借りに行くなど、地域に根付いた交流を行なっている。常に地域との関わりを意識した取り組みを続けている。   | ○    | 運営推進会議の中でいただいた意見が発展し、民生委員の協力もあり、幼稚園児、小学生、中学生、高校生等との交流への取り組みが検討されている。また地元の高校教諭がホームに直接来られ、職場体験の要請もあり、ホーム側はいつでも受け入れられることを伝えている。今後、実現に向けての取り組みが期待される。 |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |    |   |  |      |   |
| 4                            | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | “井の中の蛙”に陥らないようにと、毎年外部評価は有難く受けとめている。全職員で自己評価を行ない、項目の意味を一緒に考えながら管理者を中心としてまとめた。昨年度の外部評価後、改善計画書を全職員で検討しながら作成し、課題を明らかにして改善に向けて話し合った。『多機能性を活かしたケア』という点においては難しかったが、地域との関わり方、日頃のケア面など(プライバシーの確保や声かけなど)、現在のサービスの内容を振り返る良い機会となった。                                  |      |   |
| 5                            | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回、定期的に同法人内のホーム4棟合同で行なわれている。これまでの会議の中では、参加メンバーの方からの意見と合わせて、質問も多く、1つ1つ丁寧に回答していくことでホームを理解していただくように努めてきた。外部評価の結果は、会議でご報告するとともに、ご家族、市の職員、地域の方々にも配布して読んでいただき、「こんなところまで気をつけていたのですね」と驚かれたり、励まされたりと、ホームの取り組みを理解していただけている。また平成20年9月からご利用者にも会議へ参加していただくようになった。 |      |   |

| 外部                     | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|------------------------|----|--|--|------|--|
| 6                      | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | ほぼ毎月、ホームの職員が交代でホームの催しの案内や制度上の手続きや書類の提出等のために市担当窓口を訪れ、必要に応じて、ご報告やご相談を行なっている。運営推進会議や行事の時以外にも気軽にホームに寄ってくださるよう、地域の方や市担当者にお声かけをしている。運営推進会議の回数が重なるにつれ、市担当者との距離も近くなり、会議終了後の何気ない会話の中で、近況報告や相談ができるようになるなど、相談しやすい関係が保てるようになっている。                |      |  |
| <b>4. 理念を実践するための体制</b> |    |  |  |      |  |
| 7                      | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | ご家族は、健康面や暮らしぶりを特に気にかけておられるため、毎月『ホーム便り』をご家族へ郵送し、毎日の暮らしぶりや健康状態についてお伝えしている。またご家族が来訪された際はしっかり個別にご利用者の心身の状況をお伝えしている。請求書は法人事務所から毎月郵送しており、小遣い程度の管理をさせていただいている方については、ご家族が来訪時に出納状況を確認していただき、サインをもらうようにしている。                                   | ○    | これまでは毎月1回、ホーム便りと一緒に生活ぶりを記載したお手紙をご家族へお渡ししていた。20年から、業務時間の兼ね合い等から、ケア面の方にゆとりを持っていきたいとの思いで、毎月郵送していたお手紙が中断となっている。楽しみにして下さっていたご家族もおられたため、今後はケア面との両立を工夫しながら、年に数回でもご利用者の笑顔や表情等をお手紙を通してご家族へお伝えしていきたいと職員は考えている。 |
| 8                      | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 法人本部が中心となり、年に2回、ご家族アンケートを実施している。また、ご家族の来訪時やお電話の時に、話しやすい雰囲気で見えが表せるように全職員が心がけている。ご家族からのご意見を書き留めるものも作成しているが、今のところは「特に希望はありません。良くしていただいで感謝しています」等のお褒めのお言葉のみいただいている。運営推進会議時に、市の職員の方からのご提案で、“家族会”が発足し、年1~2回の活動を実施予定としており、昨年の9月にも家族会が開催された。 |      |  |
| 9                      | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 以前は年に1度、同法人内での職員の異動が行なわれていたが、運営者は、なるべく異動を少なくしようと考えており、回数は減ってきている。また必要により異動があった場合は、ご利用者やご家族へご説明し、1日でも早く新しい職員に慣れていただけるよう配慮を行なっている。職員間の仲が良く、会議の時にお互いの悩みを聞きあったり、食事会を年2回行う等、管理者やケアマネジャーを中心に、職員全員が日頃からチームワークを大切にしている。                      |      |  |
| <b>5. 人材の育成と支援</b>     |    |  |  |      |  |
| 10                     | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 法人本部の方で1人1人の職員の育成計画を立て、必要に応じた研修に参加させている。法人全体で、2ヶ月に1度、職員全員参加の研修会を続けており、実技を交えた研修や1人1人が発言する場も設け、さらに本部の施設長自らが講師を務める等、内部研修の内容が充実してきている。また外部研修に参加した職員からは会議の中で伝達講習会がなされている。現場では、運営者や本部相談員、管理者、ケアマネなどが職員の相談役や指導にあたっており、相談しやすい環境を整えている。       |      |  |
| 11                     | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 施設長や管理者は同業者との交流の必要性を認識しており、市の事業者協議会に入り、協議会主催の研修会や事例の合同検討会に参加している。現在の協議会は、参加できる者が職種、立場で限定されており、一般職員が参加することはほとんどない。同法人内の交流の場でも、職員はいろいろと気付かされることも多く、今後は法人外のホームとの交流にも力をいれていきたいと考えている。  | ○    | ホームとしても、相互訪問といった職員レベルでの交流を行うことを希望しているとのことで、行事案内等を他のホームへお送りしたり、交流会の呼びかけも実施している最中である。今後も、職員同士のネットワークを広げていくためにも、引き続き協議会へ提案していく等、実現に向けた取り組みが続けられることを期待したい。   |

| 外部                                 | 自己 | 項目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|----------------------------------|
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |  |  |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |  |  |      |                                  |
| 12                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 病院からのご入居が多いため、ケアマネや本部の施設長自らが何度か病院を訪問して、ご入居予定のご利用者の方と顔馴染みの関係が築けるように心がけている。ご家族の了解を得て、ホームの生活に慣れるまではご家族の来訪を多く持っていただくようお願いしたり、事前にご家族からご本人の好みや嫌なことを教えていただいている。またご入居の際に、知人や同町出身者が既にご利用になられている場合もあり、そのような時は慣れた方々とお話をする機会がもてる環境作りなどに配慮している。 |      |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |  |  |      |                                  |
| 13                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                       | 職員は、ご利用者から保存食(味噌、漬物、梅干、らっきよ等)の作り方を教えていただいている。元漁師の方からは、魚のさばき方や調理法を教えていただいたり、「暑かね(暑いね)、きばれよ(頑張れよ)、昨日はおらんで寂しかったよ、あらっきちよったんか!」などと、職員を励ましていただく場面も多い。その都度、職員はご利用者に対して感謝の気持ちをお伝えしている。   |      |                                  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |  |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |  |  |      |                                  |
| 14                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | ご利用者の日々の生活への思いを知りたいと、いつも職員は考えている。ケアについては、何事につけ、問いかけの形で言葉かけをし、ご利用者の意思を確認するようにしている。従来より、法人として介護計画の作成には力を入れており、法人独自のアセスメントシートを使って情報収集を行なってきた。また、職員全員、ご家族からもご希望、ご要望をしっかりと聞き取り、ご本人の望む暮らしに近づけるよう思いや意向の把握を続けている。                          |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |  |  |      |                                  |
| 15                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している        | 内容、表現ともに、ご利用者の視点に立っており、現在行なっているケアは、「地域で暮らす」視点も含めてほぼ記載されている。計画作成担当者が他ホームと兼任のため、作成にあたっては、ホーム職員と話し合いをしており、ご本人、ご家族、主治医や法人内作業療法士、他ケアマネジャーなどに相談し、意見をいただきながら作成している。また手順に添ったサービス内容がしっかり細かく記載されている介護計画書も作成している。                             |      |                                  |
| 16                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している    | 状態変化があった時や新たな要望が挙がった時は、予定時期の前でも見直しをしている。変化の兆しについての気づきや、ケアの変更の必要性の話し合いを、月2回のカンファレンスで行なっており、全ご利用者について月1, 2回程度、検討を行なっている状況である。またケアプランの内容に沿った記録も記録方法の工夫により毎日細かく残すことができおり、確実に実施状況の把握もできている。   |      |                                  |

| 外部                                 | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|------------------------------------|----|---|---|------|--|
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>           |    |   |   |      |  |
| 17                                 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々<br>の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                        | 職員は、入院中のご利用者の洗濯物を病院へ2、3日に1度取りに伺い、その際、医師や看護師等と病状経過報告等の連携を図っている。またご利用者やご家族のご要望に応じて、定期的受診の他、急な受診の対応や、毎日点滴が必要な方でもホームから通院で対応し早期退院を図るなど、柔軟な対応を行っている。ご利用者のご希望に応じて昔なじみの場所へドライブにお連れしたり、お墓やお寺参りなど、職員同行のもと外出支援を行っている。また地域の方からも介護に関する相談等を受けたりすることもある。 |      |  |
| <b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |    |   |   |      |  |
| 18                                 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に<br>し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している         | ご家族などの要望を聞き、以前からのかかりつけ医で受療していただいている。希望のかかりつけ医が遠い場合等は、ご本人、ご家族に同意の上、協力病院で受療していただくようお願いするが、強要はしていない。通院時、前もってご利用者の状態やご利用者が気にされていることを、職員から医師や看護師にお伝えすること等、医療機関との連携も維持できており、医師、看護師も、ご利用者への言葉かけに配慮してくださっている。通院の結果は、変化がない場合であっても、必ずご家族にご報告している。   |      |  |
| 19                                 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 状態の急変時などは「何かあったら病院でお願いします」と話されるご家族がほとんどであるが、看取り時についての意向に関しては、ご利用者やご家族から充分にお聞きすることができていない。過去、1例、看取りケアのご希望があられたときは、ご家族とも繰り返し話し合い、かかりつけ医とも連携を図りながらケアを行なった。職員は、ご利用者やご家族が望まれる生活を支援していきたいと考えており、また看取りに対しては前向きな姿勢を持っており、ご希望があれば受け入れの準備は整っている。    | ○    | これまでも法人全体で方針を繰り返し話し合っており、今後はもっと明確な、ホームとしての重度化や終末期に対する方針の話し合いを進めていきたいと考えている。医療機関との詳細な打ち合わせやホームでの対策なども必要となってくるため、法人本部への相談を行なうとともに、今後、ご本人やご家族に対して、ご入居の際等にお伺いしていく機会を作っていきたいと考えている。既にご利用になられている方々に対してもご家族等と連携を図りながら、終末期に対する意向を可能な範囲で確認していき、看取りの方針が共有できるようになることを期待したい。 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>   |    |   |   |      |  |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>             |    |   |   |      |  |
| <b>(1) 一人ひとりの尊重</b>                |    |   |   |      |  |
| 20                                 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 前回の改善計画書作成時にも職員全員で話し合いを行なった。ご利用者がご自分のペースで生活できるような配慮を忘れず、急かすような言葉が出る時は職員同士で注意し合うように心がけている。またご利用者の居室を入室する時は、必ずお声かけを行なうなど、個々に応じた話し方をするように気をつけている。個人情報に関する話をするときは、他に聞こえないよう配慮するとともに、書類の管理を含め、全職員がプライバシー確保の徹底が実践できている。                         |      |  |
| 21                                 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に<br>し、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している       | ご希望を言葉で表出できないご利用者であっても、職員が寄り添い、表情やわずかな言動、行動などからご利用者のお気持ちを汲み取るように配慮している。出来る限りご本人のペースで自由に行動していただくよう心がけている。また言葉で意思表示ができるご利用者であっても、遠慮気味な方が多く、職員が方言等を交えながら話しやすい環境を作り、話を聴いて聴いてお気持ちを引き出そうと意識しながら言葉かけを行っている。                                      |      |  |

| 外部                                   | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|--------------------------------------|----|---|---|------|---|
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |    |   |   |      |   |
| 22                                   | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 1人1人の好みを把握し、嫌いなものは代替として提供させていただく等、各ご利用者の好みに応じたお食事を召し上がっていただいている。また年に数回、外食のバイキングにお連れしている。また、一緒に献立を考えたり、漁師特有の調理法を教えていただいたり、一部のご利用者には買出し、下ごしらえ、味見、食後の片付け等を手伝っていただいている。年々、体調の変化とともに、皆と一緒に下ごしらえや調理を楽しむ機会は減ってきている。                            | ○    | 食事の準備や片付け等が得意でないご利用者もおられ、皆と一緒に協力して下ごしらえや料理をできる機会が徐々に少なくなってきた。今後も引き続き、職員がご利用者の意欲を引き出そうとする声かけの方法や作業分担、役割の工夫等を受け、皆と一緒に料理が楽しめる機会が増えていくことに期待したい。 |
| 23                                   | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 基本的に時間帯や入浴回数は決めているが、ご利用者からの求めがあれば毎日入浴可能な状態にはなっている。羞恥心を配慮し、また持っているお力を発揮していただくために、可能な限り自分で洗っていただいている。入浴拒否のあるご利用者に対してはシャワーを使用せず、昔風に洗面器と浴槽のお湯でゆっくりと自分のペースで入浴時間を過ごしていただいた結果、拒否が徐々に少なくなってきた。  |      |   |
| <b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b> |    |   |   |      |   |
| 24                                   | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ご利用者が長年培ってきたお力を発揮していただけるよう、食後の茶碗拭きや洗濯物たたみなど日常生活の中で役割を持っていただいている。また、歌やゲーム、パズルや俳句等の趣味を活かした活動を取り入れたり、保存食の作り方や漬物のつけ方、魚のさばき方等を教えていただいている。政治の解説をしてくださる方、日々の会話の中で昔からの知恵を教えてください方など、お1人お1人のお力を発揮して活躍の場をより多く作れるよう配慮している。                         | ○    | 職員は、プランター等も活用してご利用者と一緒に野菜を作り、収穫していきたいと考えている。今後もご利用者の得意分野を引き出しながら、楽しみを持って生き生きとした生活が継続できるような取り組みが増えていくことを期待していきたい。                            |
| 25                                   | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 最近では近くの港まで豪華客船の見学に行ったり、バイキング、ドライブ等へお連れしている。ご利用者が入居される前から良く行かれていた海や公園、季節の花が咲いている場所、馴染みの地元の店、お墓参りなど、お好みの場所に個別に外出できるよう職員は支援している。外出の際、嬉しそうにされているご利用者の表情を見て、職員も一緒になって喜びを感じることができている。   |      |   |
| <b>(4) 安心と安全を支える支援</b>               |    |   |   |      |   |
| 26                                   | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 防犯上の理由で夜間帯は鍵をかけているが、6時から21時まで玄関の鍵は基本的にかけておらず、ご利用者の方には自由に出入りしていただいている。職員同士で声をかけ合いながら、同敷地内のホームとも協力し、お1人お1人の行動の確認や見守りを行なうとともに、近所の方にも見守りや必要時の連絡のお願いをしている。   |      |   |
| 27                                   | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 消防署の協力も得ながら、ご利用者にも参加いただき、年に2~3回、通報、消火、避難訓練を行なっている。また『グループホームにおける火災時の対応について』の研修にも消防署の方に講師としてきていただいている。また消防署と消防団員、地域の方々には火災避難時のご利用者の避難場所の確保と避難時の介助も依頼している。災害時備蓄についても、同法人施設からの援助もできる体制も整えており、また隣接する施設(法人外)に対しても食料や水等の援助をいただけるような契約も交わしている。 |      |   |

| 外部                                | 自己 | 項目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| <b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b> |    |   |  |      |                                   |
| 28                                | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 年に1~2回、同法人の管理栄養士に食事の記録をチェックしてもらい、助言をいただいております。必要なカロリーが摂れているかの確認等もとれている。毎月1回体重測定を行ない、定期検診のコメントも参考にしながら、お1人お1人の食事量や水分量を考慮している。水分摂取が少ない時には、甘いコーヒーやココア、暑いときでもお好きな温かいお茶を出すなどして飲水量を増やしている。   |      |                                   |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>    |    |   |  |      |                                   |
| <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>            |    |   |  |      |                                   |
| 29                                | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 昨年から廊下には、昔使用していた懐かしの醤油壺や酒壺、また昔の炊飯ジャーや水を汲んで肩に担いで運ぶ物等、ご利用者が懐かしい気持ちになられ、昔の生活ぶりの会話も弾むような物が置かれている。また廊下には季節に応じた飾りつけがなされている。日差しに配慮したカーテンやよしずを使用しておりリビングにはソファやテレビを置いてくつろいでいただいている。いすの足に防音シートをはかせ、音に配慮してあり、日中は窓を開け換気心がけており、ポータブルトイレを使用する方には芳香剤を設置し、臭いが気にならないよう配慮している。 |      |                                   |
| 30                                | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | ご本人、ご家族とともに相談しながら、衣装ケース、引出し、写真(白黒写真)、位牌、愛用の水(ペットボトル)、趣味の物(釣竿やパズル等)などが持ち込まれており、ご利用者にとって慣れ親しんだものに囲まれ、安心した生活が送れるように配慮している。ベッドのシーツは毎朝しわ伸ばしされており、清潔感にあふれている。  |      |                                   |